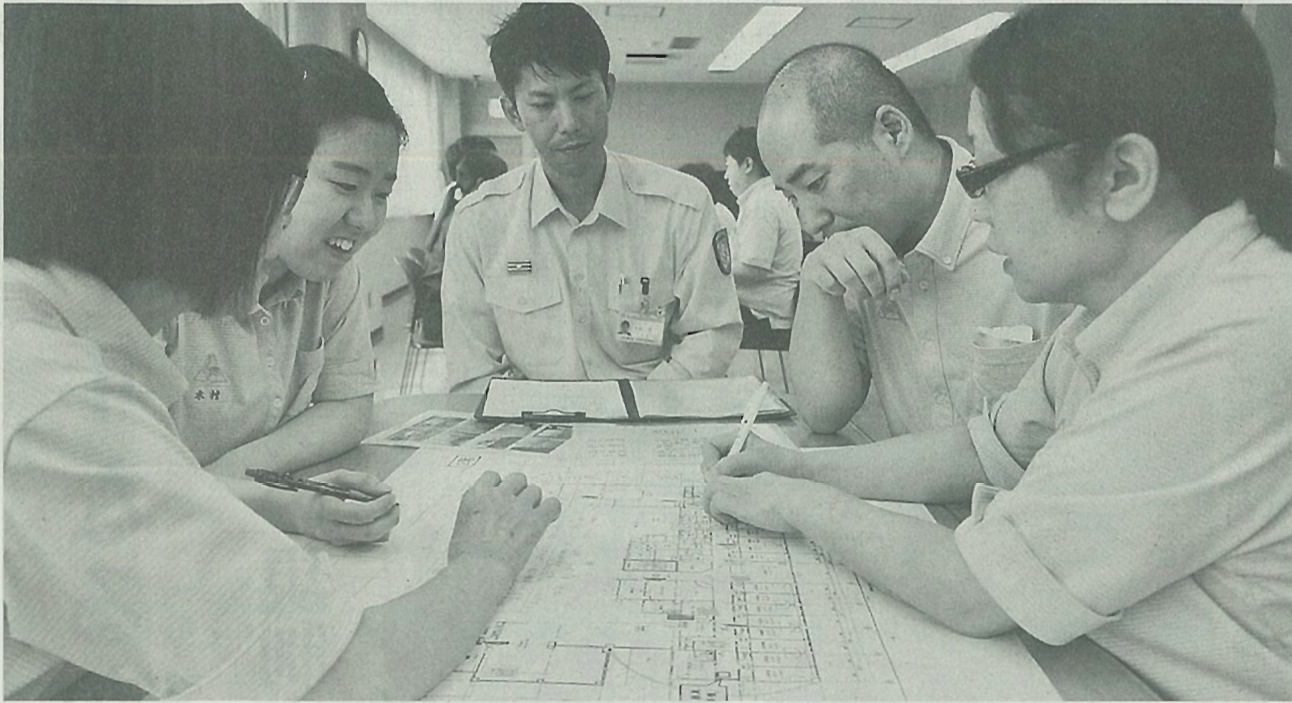


令和元年7月24日（水） 北海道新聞（夕刊）7面

図面を見ながら入居者の避難経路を話し合う施設の職員

## 火災に備え 市消防本部が初の図上訓練

# 介護施設の避難経路確認



## 入居者誘導 真剣に検討

釧路市消防本部は、図面を使って火災時の避難経路や消防設備などを確認する初の図上訓練を市内の介護施設で行った。  
（熊谷知喜）

施設で火災が発生した際、初期消火や入居者の避難誘導などを迅速に行ってもらうのが狙い。19日に市芦野1の介護付き有料老人ホームはまなす芦野館（定員56人）で行われ、介護職員ら18人が参加した。

施設の職員は4班に分かれ、「午後11時半、2階の洗濯・乾燥室から出火し煙が廊下に流出」など、それぞれ異なる想定で議論。「車いすや歩行介助が必要な人はバルコニーに避難させる」「入居者の居室に煙が入らないよう居室の扉を閉める」などの意見が出た。

谷春江施設長は「今後も継続し、入居者と職員の名を守りたい」と話した。同本部は他の施設にも図上訓練の実施を働きかけるほか、施設から依頼があれば対応する方針。